



大暑かな鏡の奥へ人の去り	千田 百里
あかときや蟬は青ざめつつ生まれ	辻 美奈子
足音で解る人あり蟻地獄	甲州 千草
眼に入る汗は入らせ陶土練る	林 昭太郎
夕焼を追ひかけてゆく中央線	町山 公孝
生かされて万の芒の中を行く	小山田子鬼
サイフォンに当つる青き炎梅雨寒し	栗原 公子
大いなる梁仰ぎゐる涼しさよ	高橋あさの
滑走路とことん洗ひ梅雨明くる	峰崎 成規
身を包む布に風すむ夜の秋	平松うさぎ
梅雨深む大岩攪む紀元杉	杉本 光祥
荒畑の風のざわめき蛇の衣	福島 茂
青葉風五山一位の寺に湧く	埴 誠一郎
東京は坂多き町緑の夜	栗坪 和子
気がつけば武器我の手に蠅叩き	村上 葉子
総立ちとふ美しき形や蓮揺るる	本池美佐子
地下鉄を出るや祭の渦の中	七田 文子
滝しぶきやがて五体の透明に	須賀ゆかり
若冲を凍り付かせし羽抜鶏	宮岡 弘
青芦や杭一本の舟溜	中村 重幸
日本の木の家に住み水を打つ	鈴木 基之
夕立あと空つかの間の無一物	菅原 健一
打水にあかり重なる夕べかな	小坂 尚子
彦星の櫂は全力雨催	福田 肇
瀬を早み梶の葉の和歌立ち上がる	広海あぐり
空蟬のかるさ命の無きおもさ	荒井千瑳子
鏡中に我が来し方や更衣	川和 宏平
身じろがぬ蟾には蟾の時間軸	吉村さよ子
白壁に描く青鳶の草書体	池田 文枝
白南風や鷗の憩ふ護衛艦	坂井 博

沖の水脈

